

“島じゅうキャンパス” チャレンジ&エコツアー

- ・チャレンジ&エコツアー
〔やまぐちアドベンチャーキャンプ
しまキャン〕

主催：山口県教育委員会
後援：周防大島町教育委員会

目次

ページ

第1章 事業の概要

「“島じゅうキャンパス”
チャレンジ&エコツアー」実施要項

03

第2章 事業の記録

チャレンジ&エコツアー
参加者事後アンケートから

06

第3章 事業の効果

参加者へのアンケート結果

11

プログラム効果に関する保護者アンケート

15

(参考) 長期プログラムを終えて

事業の概要

令和5年度 地域と連携したリアルな体験活動充実事業

「島じゅうキャンパス」
チャレンジ&エコツアー」実施要項



令和5年度 地域と連携したリアルな体験活動充実事業
 「“島じゅうキャンパス”チャレンジ&エコツアー」実施要項

山口県教育委員会

1 趣 旨

自然体験活動やグループでの他者との関わりを通して、自分の能力や可能性に気づき、子どもたちの社会を生き抜く力として必要な非認知能力（自己肯定感、自律性、協調性、積極性等）の向上を図る。

また、地域の特色を生かしたエコツアーを通して、自然環境や歴史文化等を体験しながら学ぶことで、自然や文化を守り未来への遺産として引き継いでいく活力ある持続的な地域をつくる人材を育成する。

2 主 催

山口県教育委員会

3 後 援

周防大島町教育委員会

4 実施内容及び対象、期間

プログラム名・期間	対象	定員
事前説明会：6月25日(日)	以下 A 参加者及び保護者	—
A：チャレンジ&エコツアー (①②)	小学5・6年生及び中学生	32人
B：エコツアー (③)	小学5・6年生及び中学生	24人
①やまぐちアドベンチャーキャンプ：7月30日(日)～8月4日(金) [5泊6日] ②しまキャン：8月4日(金)～8月5日(土) [①から続けて1泊2日] ③学習交流ツアー：12月23日(土)～12月25日(月) [2泊3日] (予定)		

5 場 所

旧周防大島町立安下庄中学校及び周辺山域・海域

6 事前説明会

日時：令和5年6月25日(日) 9時30分～12時00分

場所：旧周防大島町立安下庄中学校(周防大島町安下庄)

対象：チャレンジ&エコツアー参加者及び保護者

内容：プログラムの目的、持参品や感染防止対策の説明、保護者との質疑応答、参加者同士の間関係づくり、野外活動に係る基本スキルのレクチャー等
 ※応募多数による抽選の場合、事前説明会への出席が可能な参加者を優先する。

7 日程

	チャレンジ	A	B	研修内容(例)
やまぐち アドベンチャー キャンプ	7月30日(日)～ 8月4日(金)AM	○	—	・開会式(やまぐちアドベンチャーキャンプ) ・バックパッキング(荷物を背負っての山歩き) ・ソロ(一人になる環境で思考する) ・グループミーティング ・クリーンアップ(片付け) ・ファイナルミーティング
しまキャン	8月4日(金)PM ～8月5日(土)	○	—	・開会式(しまキャン) ・講習会(自然・環境) ・マリンアクティビティ(シュノーケリング、シーヤック)

				<ul style="list-style-type: none"> ・海浜清掃 ・閉会式
学習交流 ツアー (予定)	12月23日(土) ～12月25日(日)	—	○	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・サイクルツアー ・ミカン収穫体験 ・ジャム作り・販促 ・学習成果発表会・閉会式

8 参加費

- A) チャレンジ&エコツアー：24,000円(食費、装備品、活動代、保険代、消耗品等)
- B) エコツアー：未定(※後日別途チラシを送付)

9 指導者

山口県野外教育活動指導者研修会を修了した指導者等

10 携行品

マスク(必要に応じて)、長袖シャツ、半袖Tシャツ、下着、長ズボン、ソックス、帽子、タオル、軽登山靴、雨具(カッパ)、ヘッドランプ、軍手、油性ボールペン、空のペットボトル(500ml)、チャック式クリアフォルダー、歯ブラシ、ビニル袋、虫除けスプレー・虫さされの薬、水着、マリンシューズ等

※ザックをはじめ、野外の生活に必要な装備のほとんどは主催者側で共同装備として準備する。(詳細は事前説明会時に詳しく説明を行う。)

11 募集方法

- ・Aは5月中旬、Bは10月以降(予定)に県内全小中学校及び特別支援学校(小中学部)に募集チラシを配付する。
- ・地域連携教育推進課ホームページに募集ページを掲載する。

12 申込方法

「往復はがき」にて申し込む。(締切り Aは6月5日(月)、Bは後日案内)

13 その他

- ・やまぐちアドベンチャーキャンプ参加者の決定にあたっては、不登校等の課題を抱える児童生徒に配慮する。
- ・専門家の指導の下、必要な感染防止対策を講じた上でプログラムを実施する。
- ・今後の新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し事業を中止する場合がある。
- ・本事業は文部科学省の委託事業「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」を活用して実施する予定としており、委託契約の条件によっては内容を変更して実施する。

14 問合せ先

山口県教育庁地域連携教育推進課青少年教育班

〒753-8501 山口県山口市滝町1-1

電話：083-933-4650 FAX：083-933-4669

電子メール：a50400@pref.yamaguchi.lg.jp

担当：上野 剛

事業の記録

チャレンジ&エコツアー
(参加者事後アンケートから)



自分が成長したと思うこと

○思いやり・協調性・協力に関すること(11)

- ・相手がどう思っているのか考えて行動に移すことができた。
- ・仲間のことを気遣う。山登りはきついから、しんどそうな人の荷物を持ってあげた。
- ・みんなへの声掛けで、みんなに勇気や元気を与えたりすることができた。
- ・知らない友達ともとても仲良くなれた。
- ・自分が人と助け合うことが多くなった。

○コミュニケーション・本音に関すること(7)

- ・友達との付き合い方(今までは注意されたら言い返していたけど、それが減った。)
- ・自分の意見を言えるようになった。
- ・誰にでも話せるようになった。
- ・自分が人に話しかけることが多くなった。

○野外生活に関すること(7)

- ・防災のときとかに使いそうなタープ、テントが組み立てられるようになった。
- ・サバイバル力(料理、テントなど)

○自信・自律的な行動・積極性に関すること(5)

- ・嫌なことがあっても、落ち着いたらできた。
- ・諦めないで進んでできること
- ・進んでできるようになった。手伝いができるようになった。

○精神力・忍耐・粘り強さに関すること(4)

- ・あきらめずに最後までがんばれた。
- ・しんどくても歩き続けたこと。
- ・最後まであきらめない心。

○考え方・意識の変化に関すること(2)

- ・人との関わり合いや時間をどう使うか考えることができた。
- ・ポジティブに考えることができるようになった。

○その他

- ・自然にたくさん触れられるようになった。
- ・好きな自分と直したい自分をきちんと見つけることができた。

「仲間」について感じたこと・考えたこと

○優しさ・気遣いに関すること(7)

- ・仲間がいなくて一人でキャンプをしていたら、くじけていたかもしれない。でも仲間がいたことによって、人との関わり方・接し方などを学ぶことができた。自分がどのようにしたら喜んでくれるか考えて行動に移した。
- ・仲間は声掛けもしてくれるし、みんなのことを気にかけてくれるし、一人じゃできないことを一緒にやってくれたり、疲れた時に手伝ってくれたりした。
- ・みんな困ったりしたときに手伝ってくれたのが優しかった。

○協力・支え合いに関すること(6)

- ・この班はみんながみんなの意見を尊重しているからとても安心して役割などを決められた。あと、チームワークも築けたと思う。
- ・仲間は一人じゃ乗り越えられないことも、励まし合って乗り越えられるし、怖いことややりたくないことも仲間がいれば怖くない。人生って仲間がいなければ生きることができないし、協力し合うからこそがんばることができると思う。
- ・仲間と協力してゴールしたときにみんなと一緒に来て良かったなと感じた。

○仲の深まりに関すること(6)

- ・知らない人でも1週間一緒にいたら、とても仲良くなった。
- ・初めの頃は知らない友達だったので、どうなるかとても不安だったけど、今では誰とでも話せるくらい仲良くなった。知らない友達と話せた時はとても嬉しかった。もっともっと知らない人と仲良くしていきたいと思う。
- ・優しい人がたくさんいて話しやすかった。お互いをたくさん知って話せるようになった。

○多様性・相互理解に関すること(3)

- ・みんなにはとても良いところがあるので、とても楽しいキャンプになった。
- ・苦手な人がいても、その人のすごいところやよいところを見つけたら、もっとその人が知れるし、苦手じゃなくなる。
- ・人によって個性が違っていて、その人の個性によって良いところがあったり、悪いところがあったりした。今回のツアーで出会った仲間にはとてもいろいろな個性の人がいて、いろいろなことを経験できた。

「自然」について感じたこと・考えたこと

○良さの実感に関すること(8)

- ・いつも見ている風景と違って、高くきれいという感情が生まれた。嵩山の展望テラスの景色がまだ心に残っている。
- ・自然がとても気持ち良かった。こんなに自然と関わることがないから、すごい自然と仲良くなれた気がする。
- ・自然の中だとよく風も通って涼しかったし、いろいろな虫の抜け殻などを見つけたりできたのでよかった。

○厳しさ・怖さに関すること(6)

- ・山登りのときは嘉納山に登る時にとてもきつくて、「自然ってすごいな」と思った。下り坂の時にはとても滑りそうで怖かった。落ち葉が落ちていて、さらに滑りそうになった。改めて自然ってすごいと思った。
- ・自然の美しさ、厳しさ、過酷さを知った。山登りがしんどかったけど、山頂に着いたとき嬉しかった。

○自然を守る意識に関すること(5)

- ・自然について、守るためにはどんなことをすればいいかなと考えた。
- ・ぼくは正直地球は滅びないと考えていた。しかし、現実はどうしてもまずい状況だった。海ではとてもきれいな自然が見れて、気を付けてこの地球を守ろうと思った。
- ・マリナクティビティで海だけじゃなく、森をきれいにしても海がきれいにできることが分かった。

○生き物・植物に関すること(4)

- ・花がきれいと思った。
- ・自然は昼でも涼しくて、朝も起きやすかった。虫も多かったけど、意外と慣れた。
- ・ヒグラシ、トンボ、鳥を見て、季節の変わり目が分かった。
- ・自然には、虫とかもたくさんいるけど、時々自然で過ごすのもいいなと思った。

日常生活にもどってから、今回の経験を生かしてがんばろうと思うこと・決意

○友達関係に関すること(7)

- ・学校ではいろいろな人をしっかり見て、相手の良いところをよく見ていきたいと思う。
- ・仲間が助けられて嬉しかったから、いとこと友達に優しくしたい。サンクスでは、友達に「ありがとう」と言われて嬉しかったから、これからは強く言い返さず「ありがとう」と言いたい。
- ・ぼくがこれからがんばろうと思うことは、いろいろな個性の人とも積極的に活動することだ。わけはこのツアーを通して、仲間との関係を深くしたからだ。
- ・自分でやることは自分でやり、みんなでやることはみんなでやる。

○家庭生活に関すること(6)

- ・料理をお母さんとかに作ってもらっていたけど、これからは皿を出したりなど、どんな小さいことでもやっていきたいと思った。そして、家族を支えられたらいいなと思った。また、やりたくないなと思ったりしたときは今回できた友達のことを考えて、みんながんばっていると思いながらこれからはがんばっていききたい。
- ・親の手伝いを自分からやる。自分から積極的にご飯を作る。

○その他

- ・これから「勉強」という壁を乗り越えたいなと思っている。夏休みでしっかり復習していく。

○自律・挑戦に関すること(4)

- ・仲間が言っていたように「苦手を得意にしなくても、苦手を普通にするにはできる」から、苦手をそのままにしなくて、それを克服できるようにチャレンジしたい。
- ・私はやればできると分かったから、ポジティブに落ち着いてやりたい。

○環境への配慮に関すること(5)

- ・このキャンプではたくさんの方がサポートをしてくれてとてもすごいと思ったし、感謝をしなければいけないなと思った。当たり前を大切に。
- ・水を大切にしながらがんばっていききたい。自然災害になったときに中心になれるようになりたいと思う。
- ・エコをしていきたい…電気を節約する。水をあまり使わない。無駄に物を使わない。

○コミュニケーションに関すること(4)

- ・チャレンジ&エコツアーで、ちゃんと言えばみんな助けてくれるし、話しかけたら話してくれた。だから生活の中で自分から話しかけたり、きつかったらちゃんとのおうと思った。
- ・積極的に自分の意見を言う。みんなと話してみる。
- ・日常生活に戻っても、積極的に活動することや学校の人ともたくさんしゃべったりしていきたい。

チャレンジ&エコツアー 参加者事後アンケート

チャレンジ&エコツアーの思い出など(自由記述)

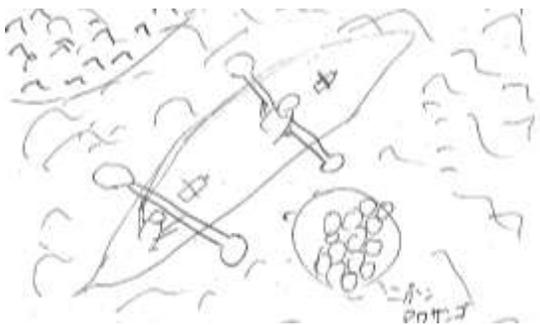
私はこのキャンプで自分の良いところと直したいところがある。私の良いところは素直に取り組んだことだ。それとみんなに気を配れることだと思う。私の直したいところは、思ったことをすぐ口に出すことができないところだ。だから少しずつ普通にしていって、段々自分のことを好きになっていきたい。これから勉強なので大変かもしれないけど、自分の力でしっかりやり遂げたいと思った。このキャンプで一番大切だったのは仲間だと思う。高い山に登ったときに励ましてくれたり、料理を一番に作ってくれたり、仲間がいなければこのキャンプ自体成り立たなかったのではないかなと思う。7人の仲間がいてとても安心した。みんながいてくれてとてもよかった。

(中1女子)

私がチャレンジ&エコツアーで発見できたことは自分の得意・不得意だ。私の好きなことは絵を描くことや本を読むことで、外に出ることが少なく、山に登るとなると登り切れるか不安だった。でも、いざやってみると意外に重い荷物を持てたし、上り坂も辛かったけれど、ちゃんと頂上に着くことができた。苦手なこともやってみると意外にいけたこともあったので、決めつけてやらないのがいけないと思った。もしかしたら、他にも「意外にいけた」ということもあるかもしれないので、どんどんチャレンジしていきたい。

(小6女子)

この絵は〇〇君と一緒にカヤックをしている絵だ。ぼくは似たようなことをやったことがあったからできたけど、できないことは教えてあげてみんなで楽しんだ。カヤックの中から、魚やニホンアワサングを見た時はとてもきれいで大鳥ってすごいなと思った。そして、海に漂っていたごみを取って回収した。少しでも海がきれいになるといいなと思った。海浜清掃には積極的に参加していきたいと思った。



(中1男子)

このツアーで、仲間も自分も成長できた。みんなで一緒に登山したり、声掛けをしたり、いろいろ学べた。個人的にはあきらめない心が成長できた。

(小6男子)

私は仲間について考えた。その理由は山に登ったり、テントをたてたりしたけれど、全部一人ではできなかったなと思ったからだ。声をかけて励ましてくれたり、重い荷物を持つのを手伝ってくれたりしてくれて、それがあつたから山も登り切れたし、テントもたてることができたんだと思った。料理をするときもみんなで協力して作ったので、仲間は大切にしようと思った。

(小5女子)

私は自分について考えた。まず、好きな自分だ。私はソロキャンプで一人でリーディング集を見ていた時に「こんな時、どうする自分が好きなかを考えればいい」という言葉を見つけた。私は次の日の登山でこの言葉を思い出して、「自分かあ、自分ね…。がんばる自分かなあ。辛い時でも進める自分が好きだなあ…」と思いながら、登山をしていた。ファイナルツアーでは、「苦しいなあ、苦しいなあ」と思ったけれど、前日のことを思い出して、「大丈夫。がんばる自分が好き」と思って、登り切った時、「あー！がんばってよかったなあー！やっぱりがんばるって良いことだなー！」と思った。

次に直したい自分だ。私は心の中では思っているけれど、口に出すことができない。「辛い」「苦しい」と思った時、心では思っているけれど、口には出せない。みんなを応援する時、元気な時は「がんばろー！まだいけるー！」と声を出すことができるけど、少し自分がきつい時は心の中でしか応援することができない。だから、自分が辛い時や少しきつくなった時は、迷わず「ちょっときついから休憩してもいい？」とか、「荷物ちょっとだけ持ってくれる？」とはっきり自分の思っていることや言いたいことを言っていきたいと思った。そうすれば、自分は少しきつなくなつてみんなを応援することができるし、自分が元気になったら、持ってくれた人にきちんとありがとうと言って、また自分で荷物を持ったりしたいなあと思った。

やっぱり人ってそれぞれ良いところと直したいところがあるので、良い自分はもっともっと高めていきたいし、直したい自分は少しずつでもいいから良い自分にできるように、自分を磨き上げてみんなに好かれる、みんなのことをすぐに気付ける良い人になっていきたいなあと思った。私はこのキャンプを通して、良い自分と直したい自分を見つけることができたので、これを生かしてととても素敵で優しい人になっていきたい。でも、良い自分も直したい自分も、人生や成長にはとても大事ななあと思った。自分を大切に、我慢をし過ぎないようにしていきたい。

(中1女子)



山の中では文珠山、嘉納山、嵩山を登ってよかった。文珠山のときは最初はきつかったけど、頂上に着いたときは、とても達成感があった。嘉納山では、下りが急でとてもきつかったけれど、協力しながら歩けたのでよかった。嵩山では、だいぶ慣れてきていいペースで登れた。特に、ミーティングではその日あったことを仲間と話せて、特産品もおいしかった。海でカヤックやシュノーケリングをできたので、楽しくてサングラスも見れたのでよかった。仲間とも協力したり、話したりできたのでよかった。



(小6男子)



事業の効果

参加者・保護者追跡アンケートから

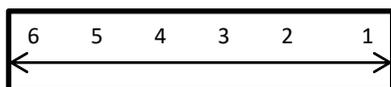
チャレンジ&エコツアー



参加者へのアンケート結果

チャレンジ&エコツアー-2023

事前調査 7/30実施 (回収率 100%)
 事後調査 8/ 5実施 (回収率 69%)
 ※体調不良により途中帰宅による
 追跡調査 10/1実施 (回収率 78%)



とてもよくあてはまる

まったくあてはまらない

□質問をよく読み、自分にあてはまるかどうか、「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの6段階で教えてください。

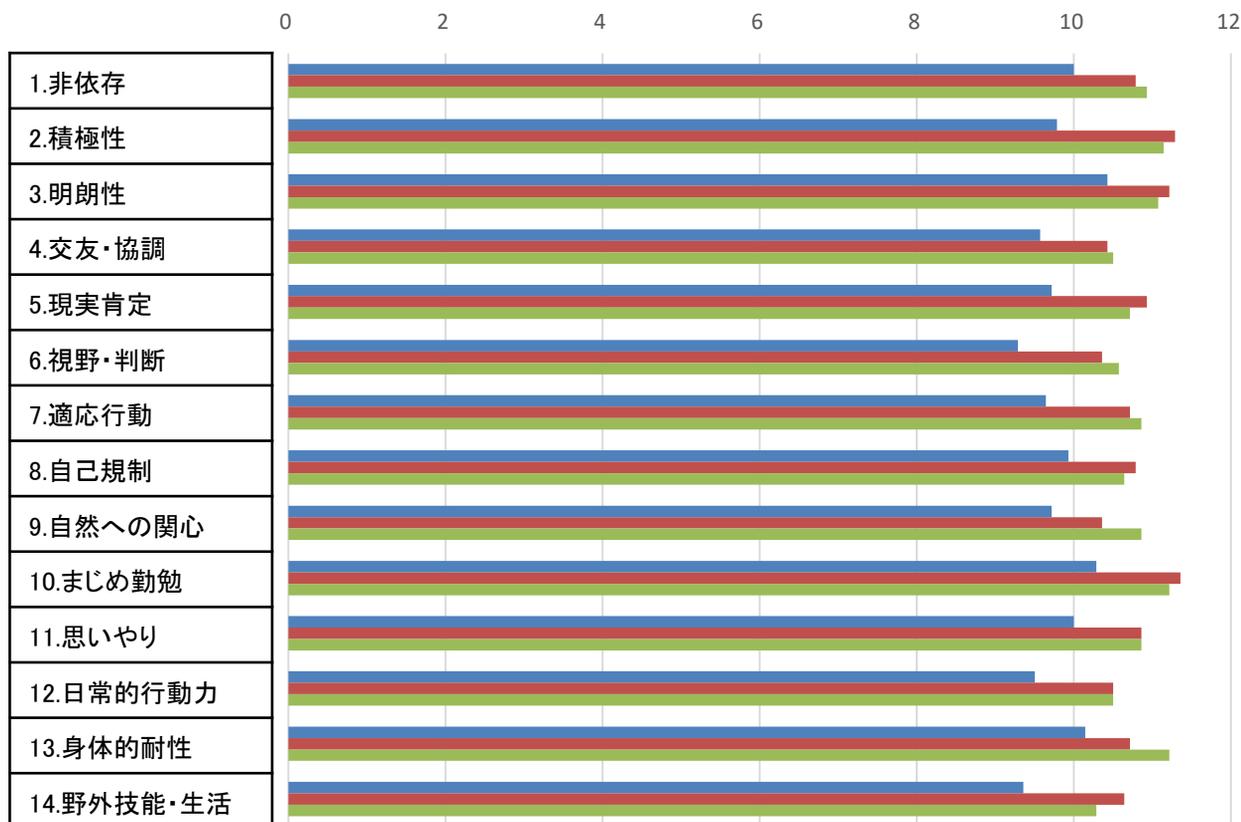
※合計得点の変化を視覚化。「IKR(生きる力)評定用紙(簡易版)」(国立青少年教育振興機構)による。

チャレンジ&エコツアー

上段:事前調査

中段:事後調査

下段:追跡調査



【考察】プログラム前後及びプログラム前から2か月後にかけて生きる力の向上が見られた。因子別においても、全ての因子で得点が上昇しており、特に積極性、現実肯定、視野・判断、適応行動、まじめ勤勉、日常的行動力、野外技能・生活において、1ポイントを超える得点の上昇が見られた。また2か月後の追跡調査からは、プログラムの効果が日常生活においても持続していることが伺える。

「積極性」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> 自分からすすんで何でもやる 前向きに、物事を考えられる。
「現実肯定」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことが大好きである。 だれにでも、あいさつができる。
「視野・判断」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> 先を見通して、自分で計画が立てられる。 自分で問題点や課題を見つけることができる。
「適応行動」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> 人の話をきちんと聞くことができる。 その場にふさわしい行動ができる。
「まじめ勤勉」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> いやがらずに、よく働く。 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる。
「日常的行動力」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> 早寝早起きである。 体を動かしても、疲れにくい。
「野外技能・生活」の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える。 洗濯機がなくても、手で洗濯できる。

チャレンジ&エコツアー 参加者追跡アンケート

(自由記述。同じ内容はまとめました)

チャレンジ&エコツアーの経験を生かして、この2か月で自分が成長したと思うこと

学習面・学校生活

- ・苦手な英語でもノートを取りながら、うなずきながら先生の話の聞くことができるようになった。
- ・毎日感想を書いていたから、自分は今日何をしたか、どうだったかが分かるようになった。
- ・自然に関するポスター作りを率先して行い、人一倍調べ、まとめた。班やクラスと協力し、授業を進めた。
- ・自分で考えて計画、行動ができるようになった。
- ・環境問題を解決するためにはどんな取組をしたらよいかなどを調べた。
- ・話し合いの時に自分から積極的に発言するようになった。
- ・その後運動会の練習があった。今回の経験のおかげでみんなで協力することができた。団長になってみんなを引っ張ることができた。
- ・自分に割り当てられた仕事は、しっかりとできるようになった。
- ・勇気を出して発表することができた。
- ・キャンプで学んだニホンアワサングのことを自由研究でまとめたら、柳井中1年の代表で発表をした。
- ・自分の視野が広がった。
- ・どんな学習でも素直に向き合えるようになった。
- ・自分から話し合いに参加できるようになった。
- ・発言、発表の回数が増えた。

生活面

- ・一人ひとりのよいところを見つけていくことができた。
- ・自分から進んで物事をするのが上手になったと思う。
- ・粘り強くなった。
- ・あきらめないでがんばる。早起きができるようになった。
- ・できるだけ洗い物を減らすようにしたり、無駄遣いをしないようになった。
- ・物を大切にできるようになった。
- ・やるべきことがすぐにできるようになった。
- ・自分から話しかけられるようになった。
- ・自分の苦手な人でも接し方を変えて、イライラしないように心掛けた。
- ・自分から進んで手伝いに取り組めるようになった。
- ・少し嫌なことがあっても山登りのことを思い出して乗り切れるようになった。また、早起きができるようになった。
- ・自分ができなかつたり、苦手なことは、友達に頼ることができた。
- ・友達がたくさんできた。

その他

- ・辛いことでもネガティブに考えることはやめて、ポジティブに考えることができるようになった。
- ・友達と仲良くすることが得意になった気が少しする。
- ・心が整った。
- ・他の人のためにできるようになった。
- ・前の時よりも協力が大事ということが分かった。
- ・知らない友達とすぐ仲良くなれた。
- ・がんばった後の嬉しさを知れたので、何事も一生懸命がんばれるようになった。
- ・誰とでも話せるようになった。誰とでも仲良くできる。
- ・たくさんの自然を見て地球を大切にしようと思った。
- ・友達とたくさんしゃべれるようになった。
- ・何事でも「他人事」として考えないこと(人に頼り過ぎないようにすること)



チャレンジ&エコツアーの経験を生かして、この2か月間がんばったことや感じたこと考えたこと

このチャレンジ&エコツアーが終わって、自分の家に帰ってきた時、とても悲しい気持ちとともに嬉しい気持ちになった。とても悲しい気持ちになったのは、もう1班のみんなが集まって話をすることがないということに、とても悲しい気持ちになった。とても嬉しい気持ちになったのは、久しぶりに会った家族の顔を見み感じたからだ。私がこのキャンプで分かったことは、自然の大切さや仲間との関わり方の大切さを知った。自然が好きになった。それに、誰にでも優しく接することの大切さなどが分かった。班のみんなと話をすることがあったら、全員に「ありがとう」と伝えたい。彼女たちに会ってから、世の中にいろいろな価値観を持っている人がいることが分かったので、その価値観を尊重できる人になりたい。

(中1女子)

チャレンジ&エコツアーをがんばり、自信がついた。山もいっぱい登ったから、これくらい大丈夫という感じで、好きではない苦手なことにも、乗り切れる力がついたと思う。勉強や運動には、嫌いという気持ちは変わらないが、前向きに取り組めた。このキャンプをしてよかったなと思った。

(小6女子)

自分から料理を手伝うようになったり、他にも自分から進んでいろんなことをするようになった。山に登ったり、テントをたてたりして、協力してくれる友達や仲間がとても大切なことが分かった。初めて会った時に、仲良くなれるか不安だったけれど、みんなが話しかけてくれたので、仲良くなれた。このことを通して、学校でも自分から話しかけて、友達を増やせるといいなと思った。

(小5女子)

私は、島じゅうキャンパスの経験を生かして、がんばったことがある。それは運動会だ。なぜなら、このキャンプに参加していなかったときの私は、いつも自信をもてず、大勢の注目を浴びることが苦手だった。だから、たいてい他の人の陰に隠れてばかりいた。しかし、このキャンプを通して、少し自分に自信をもてるようになった。普段あまりやりたくないことでも、この経験を思い出してがんばることができた。運動会の応援団というのがその一つ。キャンプを体験していなかったら、この仕事はできなかっただろう。あまり声が出なくて大変だったことも、「よし、がんばろう」と気持ちを入れ替えて練習していった。運動会本番、緊張したが、キャンプでがんばった経験を生かしながら、一生懸命応援することができた。私は、このキャンプで何事でもくじけずにがんばれば、きっとできるようになるということを学んだ。辛いことがあっても、このことを思い出していきたい。

(小6女子)

この行事が終わった後、中学校の合祭や自然のポスターを作る、大きなイベントがあった。そこでもチームや班での「仲間と一緒にする」という、ここでの経験が試された。ポスター作りは、班長となり、自分から提案したり、調べまとめたことを共有したり、人より先に自分で考えて動くことができた。合祭では、チームと協力する種目が多かったので、ここでも「仲間と動く」ことが試された。この2か月たくさんこの経験が生かされていたと思う。

(中1女子)

ご飯をよく食べるようになった。食べ物に感謝をして、残さず食べられるようになった。また、苦しいことや辛いことがあっても、「ああ、キャンプはもっと、もおっと苦しかったなあ」と思い出して、元気に前向きに取り組むことができた。そして、今いるこの場所って、当たり前じゃないんだなあと思った。すごくいろんな設備が整っているんだなあと感じた。テレビやエアコン、山には絶対はない、けれど家では当たり前にはほとんどの家が使用している。でも、山で過ごした後は、エアコンは極力つけず、うちわや扇子などで代用してみたり、テレビをつけっぱなしにはせず、別に必要のない時には電源を切るなどをするのができた。また行けたら、キャンプに行きたいと思う。最高に楽しかった。

(中1女子)

- 水や電気のありがたみを感じた。
- 自分の意見をはっきり言った。
- 習い事が続いてもあきらめないでがんばった。
- 他人の気持ちを考えて発言するようにした。
- 集団行動で周りを見ながら行動した。

(小6女子)

- 友達が困っていたらできる範囲で助ける。
- 少し苦手な子とも話してみても、好きな所や共通点を見つける。
- 今までできなかったことにチャレンジする。
- 人と協力すること。人が苦手で私が得意なことは、いばるんじゃなくて補ってあげる。逆もある。
- 人に感謝すること。ただ「ありがとう」じゃなくて、どんな思いをこめてやってくれているのかを知って、考えて「ありがとう」とやっと言え。
- 辛い時こそ相手を思いやること。自分も辛いけど他の人を助けることで嬉しくなる。

(小5女子)



ぼくはこのチャレンジ&エコツアーのときのアワサングについてとても興味をもったので、自由研究で調べてみた。講師からいただいたパンフレットなどを参考に、1冊の本にまとめた。ゴミのことや水温のことなど、いろいろニホンアワサングについて調べた。また、柳井にはたくさんのゴミが見つかった。地家室とは違い、ゴミが多かったように感じた。来年の自由研究でも、ニホンアワサングについて調べてみたいと思う。今度は水質が大島と柳井でどう違うのか、実際に潜ってニホンアワサングを見てみたいと思った。そして、先生に「発表してください」と言われた時はとても嬉しかった。発表するときも、相手の方を見たりして、うまく話すことができた。これからもこのチャレンジ&エコツアーで学んだことを生かして、日々の生活を過ごしていきたいと思う。来年もできれば参加したいと思う。そしてもっと自然のすごさを学びたいと思った。

(中1男子)

ぼくがこの2カ月がんばったことは苦手な友達や知らない友達と関わってみたことだ。わけはエコツアーでいろいろな個性の人と関わったからだ。

(小6男子)

運動会でする一輪車パレードのために最高学年としてみんなを引っ張るということがんばった。思い通りにならなくてイライラしてしまうことも多くあったけれど、あきらめずにがんばって、本番成功させることができた。

(小6女子)

チャレンジ&エコツアーで一番がんばったことは、山登り最後の日のファイナルツアーだ。何をがんばったかという、登ることだ。足がパンパンになっても歩き進んだからだ。チャレンジ&エコツアーのおかげで、コミュニケーションができるようになったし、誰かが困っている時も進んで助けられるようになった。

(中2男子)

友達との付き合い方、協力をしていること。自然のよさに気付いてから、また山に登りたいなど思えた。進んで物事に取り組めるようになった。

(中1男子)



学校が始まって自然教室とかいろいろ担当とか決める時にやりたいこととか意見を言えるようになって嬉しかった。コロナになって帰って、少し日が経ったら泣き出しちゃったけど、すぐすっきりしたから、しっかり学校のことも取り組むことができた。それにこれから持久走だから、これで体力もついたらがんばりたい。

(小5女子)

中学校の体育祭をがんばった。このチャレンジ&エコツアーの経験を生かして、「誰にでも話しかける」ということができるようになった。体育祭では、他学年の人たちと馴染めるかどうか分からなかったが、夏休みに行ったキャンプで「人を笑顔にするよね」、「本当誰でも話しかけられるよね」と言われたのを思い出したので、少し元気がもえた。体育祭では負けてしまったが、でも大成功だったと思った。とても楽しかった。体育祭の後、友達が多くなった。キャンプで学んだことを発揮できてよかった。キャンプに行き、いっぱい学んだことがあった。それをこれからの生活にも生かしていきたい。

(中1女子)

自然の大切さを意識することができた。水、電気、ガスがある生活がとても便利ということがよく分かった。ゴミ拾いをした経験を生かして学校や道端にあるゴミが目についたら拾うようになった。

(小5男子)

この2カ月間がんばったことは3つある。1つ目はスポーツだ。このキャンプが終わった後、バスケットをして運動したり、体力がたくさんついた。キャンプで重い荷物を持ったり、体力をたくさん使ったからだと思う。2つ目は集中力だ。なぜなら学校での勉強や公文、宿題などでしっかりと書いたり、字もまあまあきれいになったからだ。3つ目はコミュニケーション力だ。僕はよくカードショップなどでそこで会った人たちとバトルをするのだが、その時にあまり緊張せず、自分から話しかけることができるようになった。なぜならキャンプで他の7人と一緒に7日間過ごしたからだと思う。これからもこのような学んだことを続けていきたい。

(小6男子)

チャレンジ&エコツアーをした後から、積極的に取り組むことが多くなった。

(小6男子)



プログラム効果に関する保護者アンケート

アンケート実施 2023年10月
(保護者対象)

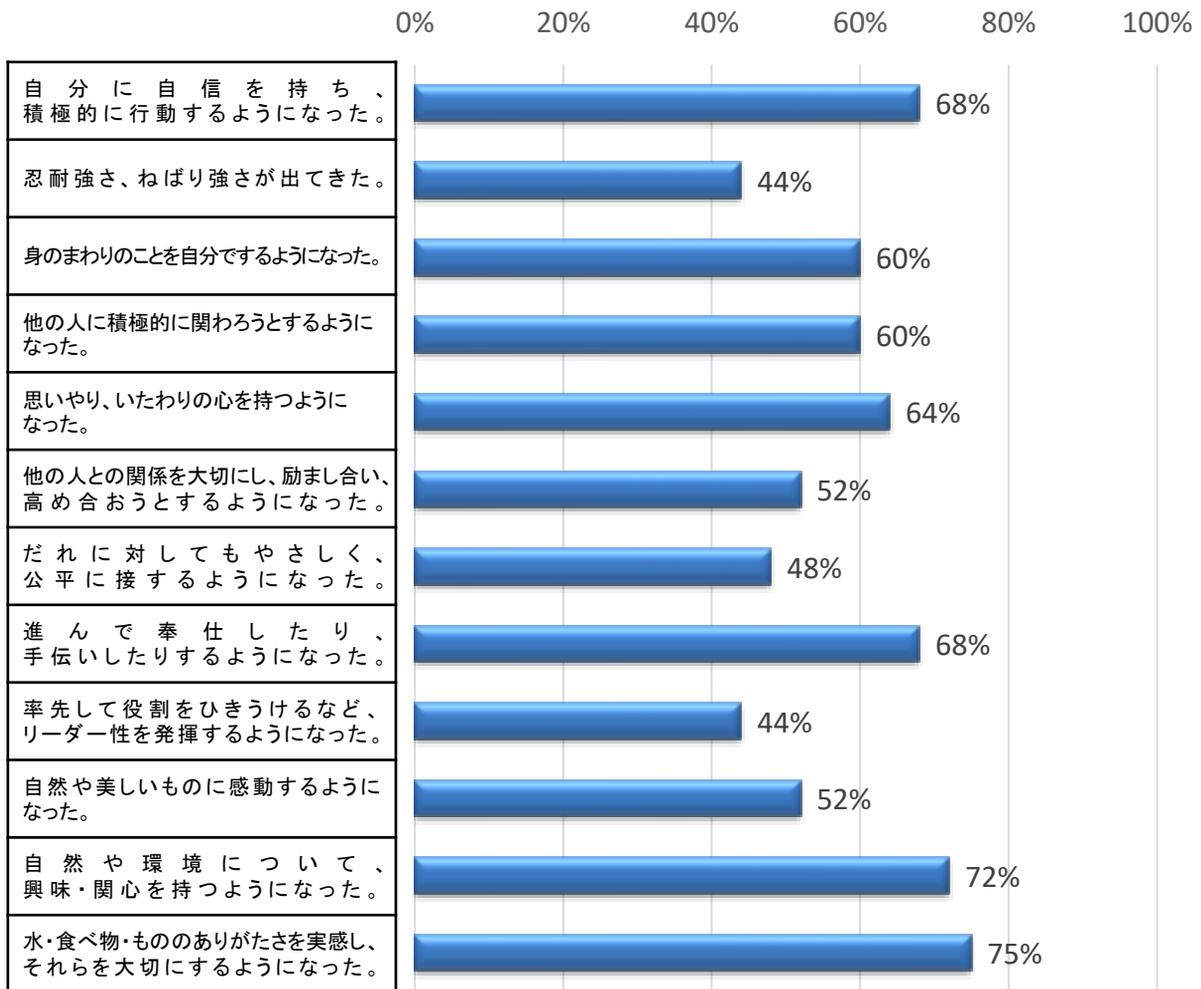
回答数・率
・チャレンジ&エコツアー
(25/32人 78%)

プログラム終了後、2ヶ月が経過した時点で、「好ましい変化」が持続しているか。

Q1. この事業に参加したことで、お子様の考え方や行動に「プラス」と思われる変化はありますか？
(他者との比較ではなく、お子様自身の変化についてお答えください。)

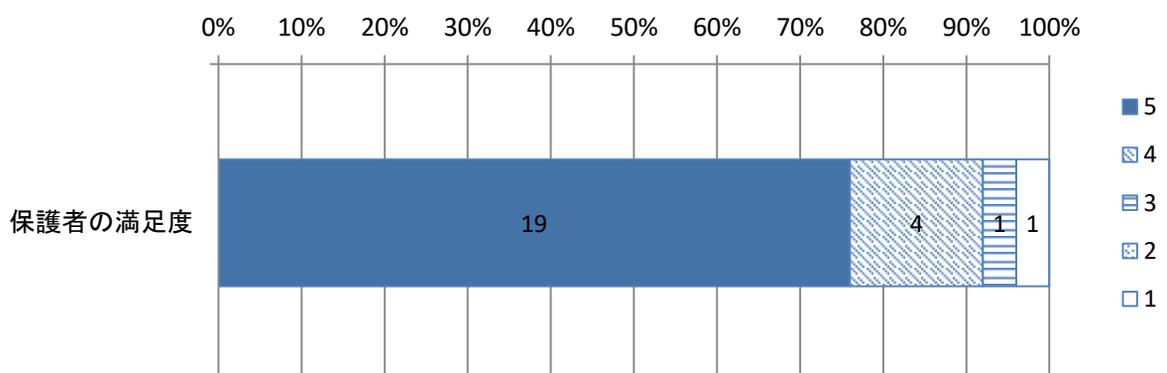
※「1 あてはまらない」「2 どちらともいえない」「3 あてはまる」の3段階回答のうち、「3 あてはまる」と答えた方の割合

チャレンジ&エコツアー (2ヶ月後)



Q2. 今回のプログラムを振り返って、どう感じておられますか。(満足度)

「1 満足していない」「2 あまり満足していない」「3 どちらともいえない」
「4 ほぼ満足している」「5 大変満足している」 の5段階からの選択



保護者の感想～チャレンジ&エコツアー～

インドア派な子なのですが、参加後、登山やアウトドアの体験に行かないかと誘うと、「行きたい！」と積極的な姿勢を見せてくれるようになりました。洗濯や食洗機、掃除機など、手伝いをよくしてくれていましたが、さらに嫌がらずいつも引き受けてくれて、とても助かっています。一番嬉しいのは、果物や野菜を食べる時、「お山的にはこの辺りまで食べられるよね」と皮や芯をぎりぎりまで食べるようになったことです。普段の生活のありがたさを感じたようです。ツアー中の振り返りで、娘が「ちょうどいい手助けが難しい」と発言したと伺い、仲間との関わり方について、深く考えるよい体験ができたのだと、心から感謝しました。ありがとうございました。

たくましい山口っ子を育てるために、ぜひこの事業を継続してほしいです。

(小6女子の保護者)

キャンプでたくさんの経験をして、辛いことも乗り越えた、最後まで仲間とやり遂げたという思いが自信となり、大きく成長したと思います。日々への感謝を口にするのも増え、友達への思いやりの気持ちも強くなっていると感じています。キャンプに参加させていただき、本当にありがとうございました。

(中1女子の保護者)

キャンプでは大変お世話になりました。キャンプ後、家に帰ってきた第一声が「電気が付く！冷たい水が美味しい！水が出る！」当たり前ですが、有難く感じたようです。心の変化ですが、キャンプ前とは変わらないのですが、今の変化ではなく、これから先に困難なこと、辛いことにぶつかった時に、このキャンプで学んだこと、感じたことが生かされるのではないかと考えています。なかなかできない経験をさせてもらい、親子共々、多くのことを学ばせてもらいました。キャンプで出会ったスタッフ、仲間たち、この出会いも大切にしてもらいたいです。キャンプ後に何人か文通が始まっています。細く長くお付き合いができればいいです。最後に、来年度もタイミングが合えば、また申し込みができたらと思います。その時はプログラム最後まで参加させたいです。一週間本当にありがとうございました。写真も楽しく見ました。楽しかった様子が分かりました。

これからも子どもたちに良い体験ができる機会を増やしていきましょう。

(小6女子の保護者)



この度は、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。重たい荷物を背負って何キロも歩くことなど普段はないので、とても大変だったようです。グループの皆と協力することの大切さや、集団の中で自分が楽しようとすると他のメンバーの負担になること等、経験してみて学んだことをたくさん話してくれました。キャンプから戻って、節電に励むようになりました。

(小5女子の保護者)

今回の事業に参加させていただき、大変良かったです。お世話して下さった方やインストラクターの皆様、一緒に参加した仲間の中でこそがんばれたし、今までにない経験をし、楽しめました。先日、学校で個人懇談があり、担任の先生から言われたことがあります。娘は控えめな性格ですが、「2学期に入って挙手し発表することがすごく多くなった。クラスで一番かもしれない」とのことで、驚きの変化でした。すごく楽しい経験と共に、大きく成長に影響していると感じました。今回いただいた写真に大変さや楽しさ、経験したこと、達成した笑顔が見れて大変嬉しかったです。本当にありがとうございました。

(小5女子の保護者)

キャンプ期間中は大変お世話になりました。参加前は、親子共(特に親)不安でいっぱいでしたが、お迎えに行った時の明るい笑顔や自信に満ちた様子を見て、やり遂げたんだなと思ひ、すごく嬉しく感じました。コロナの影響で、残念ながら途中でのリタイアとなりましたが、様々な経験ができたと思います。山登りを通して、忍耐力がついたのか、キャンプ前には部活を辞めようかなと言っていたのが、まだがんばれるみたいです。キャンプを通して自分の行動に責任をもつこと、自律する心が育ったように思います。貴重な体験をありがとうございました。

(中1女子の保護者)

キャンプの間、大変お世話になりました。家族とではできない経験をさせていただき、大変感謝しています。途中で帰ることになり、本人はとても残念がっていましたが、5日間2班のメンバーや先生方と過ごしたことをいろいろ話してくれました。辛い時に年上の子たちが楽しい歌や話をしてくれたこと、みんなで協力したことなど、前向きな発言もありました。今の生活で、出かけた時に疲れるようなことがあっても(たくさん歩いた時など)、「キャンプの時はもっと大変だったんだから！」と言うこともあります。本人はみんなと入る温泉、海での活動を楽しみに5日間がんばっていたようで、今でも心残りがあるようです。また機会があればぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。

ぜひ来年度以降も実施してください。

(小5女子の保護者)

途中でコロナに罹患し、やむを得ず帰宅しましたが、その後の自宅療養(別室に隔離)中も、自分のことは自分でササっとできるようになっていて、大変助かりました。蛇口をひねると水が出ること、床で寝られること、誰かに作ってもらったご飯が食べられること、トイレが水で流せること、今まで当たり前身の回りにあると思っていたこと全てにしばらくの間感激していました。山道を延々歩くのはとても辛かったようですが、最後まで歩き切ったことは大きな自信となっているように感じています。事前準備から終わるまでスタッフの皆さん、大変ご苦労があったことと思います。ありがとうございました。

(小6女子の保護者)

学校ではクラスを引っ張っていく行動がみられるとのことでした。発表を率先して、皆にも影響があり、発表がつながっている。市民憲章をいう場面でも大きな声で言えるリーダー的存在の様です。家では、自分の物を片付けるスピードが早くなったと思います。お手伝いも多少増え、助けてもらっています。大変な思いをし、心も強くなったと思いますが、すぐにあきらめてしまう部分もあるので、時々キャンプの話をし、山登りがクリアできたこと等、自信に結び付けていけたらと思っています。

(小6男子の保護者)

キャンプに参加する前は「行きたくないな」と言うこともあり、知らない人だらけの1週間の生活に不安を感じていたようだが、最終日の発表の様子や帰り際の車の中から「〇〇君、バイバイ、またね」と手を振る姿を見ると、キャンプが楽しく充実していたのだと思い、嬉しくなりました。このキャンプでニホンアワサングに興味をもち、自由研究でまとめたことは、本人の自信になりました。キャンプに参加したことで、大きく変化したことはあまり目に見えないように思いますが、これからの人生で、度々思い出しては自分をがんばらせてくれる貴重な経験ができたと思っています。いろいろな面でサポートしていただき、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(中1男子の保護者)

チャレンジ&エコツアーの要項を学校から持って帰ってきて、すぐに「これに行きたい！」と言った時はびっくりしました。友達と一緒に参加を約束したわけでもなく、自ら決めて希望したからです。我が子が、今まで経験したことのない他の人たちとの宿泊を伴う活動を楽しみにして待つ姿は頼もしく感じ、親の知る姿だけが全てではないと実感しました。最終日に迎えに行った時に、日焼けした肌と笑顔、班のみんなと楽しそうに話している姿を見て、充実した日々を送ったことがわかりました。帰ってきてから特に著しい変化は見られませんが、いつまでも忘れない思い出になったことは間違いのないと思います。企画・運営に携わっていただいた全ての方に感謝いたします。

(小6男子の保護者)

今回、息子をしまキャンに参加させたことは、私の中でも清水の舞台から飛び降りるほどの決断でした。同級生の中で成長の遅い息子が、このキャンプを乗り切れるのか、そして本当に何かを学んできてくれるのか、不安でたまりませんでした。最終日前日、熱中症で倒れて途中で帰ることになり、迎えに行った時、とても悔しそうに何度も「最後までいたかった」とつぶやく息子の姿がとても印象的でした。それほどキャンプ中はがんばっていて、そしてそれを認めてもらえたのだなど、親としても誇らしく、目頭が熱くなってしまいました。帰ってからすぐはそんなに変わった様子にはなかったのですが、しばらく経って、周りの人への言葉遣いや接し方が一方的ではなく、息子なりに相手のことを思いやれるような接し方に変わってきたことに気が付きました。さらに私が体調を崩した時に、自分から進んで手伝うようになり、以前の息子とは別人のように成長したことをひしひしと感じています。「自信」がついたことで、本当に積極的に行動するようになってきたんだと、日々実感しております。スタッフの先生方には、息子を見守り、認めていただき、ここまで「自信」をつけてくださったことにとっても感謝しております。この「自信」を枯らすことなく、大きく成長させてくれることを、親としてこの先、見守っていきたいです。

コロナや熱中症の心配がある中、スタッフの先生方には大変な苦労があったことと思います。そのおかげで息子はとても貴重な経験をすることができました。今後もしまキャン、アドベンチャーキャンプを続けていただければ幸いです。来年度の募集をお待ちしています。

(中2男子の保護者)

虫嫌いでしたが、極度に怖がるなくなりました。班のメンバーとも仲良くなれて楽しく過ごせたようです。そのうち一人の子が家の方にも遊びに来てくれました。学校内だけのコミュニティーではしんどいと感じることがあるようですが、他の学校にも友達がいる、別のコミュニティーができたということが、本人の心の安定につながったと思いました。キャンプにご協力いただいた地域の皆さん、指導者、先生方、ありがとうございました。

(中1男子の保護者)

進んでお手伝いをしたり、身の回りのことを自分ですることはキャンプ前からできていましたが、人と関わる際の積極性が足りないところがあると見ていました。友達に自分から声を掛けて遊ぶようなこともあまりありませんでしたが、キャンプ後、近所の子を誘って花火をしたり、ご飯を作って振る舞ったりすることがあり、驚きました。また、先日あった修学旅行では、班長を務め、大変な思いをしつつも達成感をいただいているようです。本人に自覚はないようですが、心身ともに大変だったキャンプを経験して、多少なりとも自信がついたのではないかと思います。この経験を糧にして、今後も自分の力を信じ、物事に前向きに取り組む姿勢を育てていってほしいと思います。

(小6男子の保護者)

キャンプ終了後から、身の回りのことが以前より自分でできるようになったと思います。学校の宿題や準備を段取りよくできるようになったり、家事の手伝いを文句を言わずやってくれたり、何か頼み事をしても素直に「わかった」「いいよ」と引き受けてくれるようになりました。それから、「知らない人とでも積極的に関われる」と自分で自信をもってアンケートに答えていたことに驚きました。家庭ではそういう場面に出会わないのでわかりませんが、学校やその他の場所で人との関わり方が積極的になっているのではと感じています。いい経験をさせていただき、ありがとうございました。

また参加させたいです。

(小6男子の保護者)

- ・感謝を言葉にして伝えてくれるようになってきた。
- ・今までは自分の気持ちだけをストレートに言っていたが、相手の気持ちを汲み取る努力をしているのが見られるようになってきた。
- ・自然や動物を元々大切にする子だったが、より素直に表現してくれるようになってきた。
- ・「だって」「でも」「どうせ」の否定から入る返事が減った。
- ・コロナで途中解散となって悔しかったと今でも言っているくらいすばらしい時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。

これからも非日常の体験をたくさんさせてほしい。苦しいけれども達成感が味わえるもの、仲間と協力することの大切さを学ばせてほしい。

(中1女子の保護者)

変化としては正直思っていたほど得られていません。話を聞くと、これから…という段階でキャンプは終わってしまったのかなという感じがしました。昨年度まで山でもう少し長いキャンプがあったという風に聞いております。その日程だったら、また違っていたのかもしれないと正直思うところもあつたりします。何はともあれ、多くのスタッフの方のご準備、ご尽力によってたくさんの貴重な経験をさせていただき感謝感謝です。今後も山口県の子どもたちのよりよい成長を願ってこの事業が継続されることを願っております。ありがとうございました。

天候にも恵まれ、とてもいい経験ができたと思います。もう少し山のプログラムが長ければ、より効果が得られたのかなと思うので、山口県らしいキャンプの存続を今後も願っております。

(小6男子の保護者)



令和5年度 地域と連携したリアルな体験活動充実事業報告書

(ダイジェスト版)



令和5年12月

山口県教育庁 地域連携教育推進課 青少年教育班
山口県山口市滝町1-1
電話 083-933-4650